



未来のために、いま選ぼう。



エコ・ファースト 未来に向けて

エコ・ファースト推進協議会10年の歩みと
これからの10年

発行 エコ・ファースト推進協議会

編集 エコ・ファースト推進協議会 幹事会
 積水ハウス株式会社：吉田元紀 近藤公一 玉谷かおり
 株式会社ビックカメラ：山崎昌明* 伊東敦司
 ユニー株式会社：花井彩由実* 松井淳*
 キリン株式会社：藤原啓一郎
 ライオン株式会社：小笠原俊史 矢島敏夫 羽鳥桂子*
 全日本空輸：河野昌彦*
 株式会社タケエイ：西原礼 赤石昌洋* 菊地亜矢子
 戸田建設株式会社：樋口正一郎* 矢吹慎悟* 斎藤寛彰*
 株式会社スーパーホテル：中野吉崇 芦村尚悟
 大成建設株式会社：錦木玲

10周年事業WGメンバー(幹事会*付メンバーは重複のため省略)
 積水ハウス株式会社：楠正吉 東瀬治雄
 株式会社熊谷組：木村真鉄
 ブラザー工業株式会社：小林幸江

特別協力 百瀬則子
 環境省大臣官房総合政策課政策評価室

発行日 2019年4月10日

お問い合わせは右記Webページからお願いします。



<https://www.eco1st.jp/>



10周年記念誌発刊に寄せて



エコ・ファースト推進協議会議長 **稲垣 士郎**

積水ハウス株式会社 代表取締役副会長

2018年に「エコ・ファースト」制度の創設から10年、そして2019年の12月には「エコ・ファースト推進協議会」の発足から10年を迎えます。この機会に活動の歩みと関係者の皆様の思いを記録にとどめるため、本記念誌を発行する運びとなりました。

当協議会は協議会発足時の23社から現在ではエコ・ファースト企業全45社の加盟を頂くまでに成長しました。また、全国の小中学生を対象とした「エコとわざ」コンクールの実施を始めとした多くの環境啓発イベントや独自の取り組みを、大人だけでなく将来の地球環境を担う子ども達まで幅広いステークホルダーとともに推進してきました。協議会活動の発展に尽くして頂いた多くの関係者、加盟企業の皆様のひとかたならぬご努力に深く御礼を申し上げます。また平素より環境大臣をはじめとして環境省の皆様には当協議会活動への深いご理解とご支援を頂いており、今を迎えることができることも併せてこの場を借りまして厚く感謝申し上げます。

当協議会の主な役割は、第一に、加盟企業の切磋琢磨によるエコ・ファーストの約束の取り組み強化です。第二に「COOL CHOICE」に代表される環境キャンペーンへの参加や対話など環境行政との連携強化。第三が加盟企業間の連携強化であり、最後に「エコ・ファースト」の一層の認知拡大を目指したPR活動などです。一方で、地球温暖化対策や水、資源、廃棄物問題や生態系保全など、環境問題は世界的にその対策は待ったなしの状態となり、我が国と産業界の責任はますます重要になってきています。地球を取り巻く課題に対して、一人ひとり、そして一企業の取り組みはわずかな力しかないかもしれません。しかし、当協議会のように産業界横断的な取り組み、そして各社の社員や家族、地域の取引先、お客様、子どもたちへの環境意識の広がりはずっと大きな力に変わっていくことと信じています。とりわけ、加盟企業各社が環境大臣に対して、我が国の環境技術・サービスのトップランナーとしての自主目標の達成を約束し、利益創造による発展と環境負荷低減の両立を実践し、各社が相互研鑽しながらそのレベルアップと普及を推進していることは、我が国のみならず世界の環境課題を解決していく大きな原動力の一つとなると自負しております。

これからの10年はSDGs(国連の持続可能な開発目標)のように、皆で手を携え、多くの課題解決に向かってそれぞれの強みと個性を生かしつつ前進して行かねばなりません。私たちはこのたび「脱炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」「環境コミュニケーション活動の推進」などを指す「2030年ビジョン」を策定し発表しました。同時にそれは説明責任や高いインテグリティの間われることでもあることを肝に銘じ、「エコ・ファースト」認定企業の名に恥じぬよう各社ならびに協議会としても取り組みを進めてまいる所存です。本誌が今後の協議会活動の参考となり、発展の礎となるよう願ってやみません。

2019年4月

C O N T E N T S

(敬称略)

- 1 発刊の辞 10周年記念誌発刊に寄せて
エコ・ファースト推進協議会 議長 稲垣 士郎
- 3 祝辞 エコ・ファースト推進協議会発足10周年に当たって
環境大臣 原田 義昭
- 10年の活動の振り返りと意義 ~歴代事務局から~
- 4 キリン株式会社
- 6 ライオン株式会社
- 8 積水ハウス株式会社
- 10 エコ・ファースト推進協議会発足10周年に寄せて
環境省大臣官房総合政策課政策評価室長 内藤 冬美
-
- 12 エコ・ファースト推進協議会 規約
- 14 エコ・ファーストのこれまで
- 22 「エコとわざ」コンクール
- 26 暮らしのなかのエコ・ファースト企業
- 28 エコ・ファースト推進協議会の2030年ビジョン



エコ・ファースト推進協議会 発足10周年に当たって



環境大臣 原田 義昭

エコ・ファースト推進協議会発足10周年に当たり、心よりお慶び申し上げます。エコ・ファースト認定45社の皆様におかれましては、環境分野における先進企業として、日頃より、各業界をリードして頂き、深く感謝申し上げます。

昨年エコ・ファースト制度は創設10周年となり、今年は推進協議会が発足10周年を迎えました。

この10年間で我々を取り巻く状況も大きく変化してきました。その中には、AI、IoTといったデジタル技術の発展や、シェアリング・ビジネスの普及など、社会をより便利で豊かにしていこうとする動きもありましたが、この間に、地球規模での気候変動や我が国における少子高齢化・人口減少など、様々な課題がより深刻化してきたのも事実です。

もともと、パリ協定やSDGsが成立し、これらの課題の超克が世界の共通目標となった今や、課題は単なるリスクではなく、より良く、より新しい社会を創造していくためのチャンスでもあります。

いま、環境省が目指し、挑戦しているのは、まさにそうした意味での「新しい社会」づくりです。脱炭素型かつ持続可能型という進むべき方向性をはっきりと示しながら世の中の仕組みをシフトさせていくことで、様々なイノベーションを起こし、新たなマーケットを創出する一つまり環境政策がこれからの成長の「牽引役」を果たしていくことが何よりも重要であると考えています。

こうした政策を推進する上で、各業界の環境先進企業であられる皆様は、我々にとって、かけがえのないパートナーです。今年、我が国は、G20の議長国として、世界の脱炭素化・SDGsの実現を強力にリードしていかなければなりません。まずは、この目標の達成に向け、エコ・ファースト企業の皆様の変わらぬ後押しを頂きながら、全力を尽くしてまいります。

最後に、本協議会加盟各社の益々の御発展と、この会の更なる御隆盛を祈念いたしまして、お祝いとさせていただきます。

原田 義昭

自分事として、さらなる発展を!

田中 希幸

ガラスびん3R促進協議会 理事・事務局長
(当時:キリン株式会社)

異動引継のはずが発足総会準備

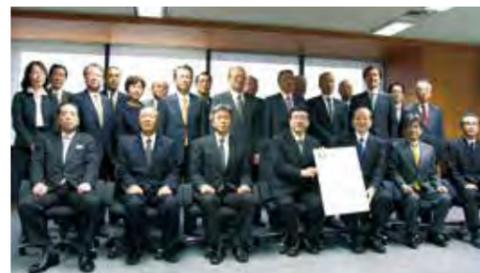
冒頭から私事で恐縮ですが、2009年12月21日付でキリンビール(株)^{※1}千歳工場(現:北海道千歳工場)から本社のCSR推進部 品質環境室(現:キリン(株)CSV戦略部)に異動になり、12月7日～9日の3日間、業務引継のため本社に出張しました。

ところが、最初の2日は翌々日に控えた「エコ・ファースト推進協議会発足総会」の準備、最終日は発足総会立ち会いとその後の幹事会に出席。結局、業務引継は一切なく、着任前からエコ・ファースト推進協議会の業務をすることになりました。

エコ・ファースト制度の認識もなく、協議会発足の経緯も知らない上に、幹事の皆さんには当日の朝に環境省のロビーで初めてお会いしたばかり、発足総会後の幹事会では、何が何やら、誰が誰やら、当惑しきりでした。ただし、はっきりわかったのはキリンビール(株)が事務局で、自分一人で務めるということ。当惑が困惑に変わりました。

暗中模索の船出

エコ・ファースト推進協議会は発足しましたが、その時点では初年度の事業計画は曖昧なもので、



「エコ・ファースト推進協議会」発足(2009年12月9日)

具体的な事業はほとんど決まってはいませんでした。しかも、会費は初年度が始まる2010年4月以降の請求でしたので、2010年の1～3月は運営資金がありません。

ところが、2月には加盟企業を対象とした勉強会セミナーを開催することと、4月にはWEBサイトを開設することは決まっていました。つまり、運営資金がない中で、事業の実施と準備を行わなければなりません。このため、勉強会セミナーは(株)INAX^{※1}さんの会議室を無料でお借りし、運営費用は参加費を徴収して実施しました。

2009年12月から2010年3月にかけての私の仕事は、エコ・ファースト推進協議会事務局としては、WEBサイトの業者の選定と打合せ、勉強会セミナーの講師選定と依頼、当日の段取りと懇親会の手配・設営、幹事会の準備と開催、そ

の他にも公印作成、銀行口座開設などの庶務的な業務もあり、キリンビール(株)の担当者としては、前任地メンバーの人事考課、容器包装リサイクル制度の再商品化委託料の算定と申込、自主回収容器の回収状況報告書の作成と所管官庁への報告、「チャレンジ25キャンペーン^{※2}」イベントの環境省ならびに社内との調整、容器包装リサイクルの各団体の会議への出席など、しかも何もかも初めてで勝手もわからず、訳がわからないまま多忙な日々を過ごしていました。

このような中、毎月幹事会を開催し、何とか初年度の事業計画の具体化を策定しました。まさしく、「走りながら考える」の態です。今から思うと、よく活動のスタートが切れたものと感心します。

因みに、「エコとわざ」コンクールと情報交換会は初年度からの事業です。

※2 2020年に温室効果ガスを1990年比で25%削減するという、「25%削減」の中期目標を達成するための国民的運動



第1回エコとわざコンクール表彰式(2010年10月30日)

自分事としての協働

幹事会社は6社ですが、それぞれ異業種です。業界や企業の文化や慣習、常識なども異なりますし、これまで一緒に仕事をした経験もありません。また、事務局も含めて誰一人として専任ではありません。初年度は「走りながら考える」でしたので、予め確定している各事業のフォーマットもありません。その都度、幹事会で一から議論し、確認しながら進めなければなりませんので、毎月のように幹事会を開催することとなりましたが、各幹事は自社の仕事の都合をつけて、毎回全員が参加して頂けました。

幹事会メンバーは所属企業も年齢もバックグラウンドも違う人の集まりですので、終了後には毎回懇親会をセットし、コミュニケーションを深めました。その成果なのかわかりませんが、在京の(株)ビックカメラの吉倉さん、ライオン(株)の岡田さん、(株)INAXの芦田さんは、環境省等との折衝や新規認定企業への加盟勧誘に同行して頂き、在阪の積水ハウス(株)の近藤さんは在阪の新規認定企業への加盟勧誘を請け負って頂きました。一人ひとりがエコ・ファースト制度の認知度向上とエコ・ファースト企業間のコラボレーションの思いを持ち、自分事として考え、協力して、事務局を支えて頂いたおかげで、何とか事務局として機能し、責務を果たせたと感謝しています。

他人任せにしない運営を目指して

2年間の任期を終え、2012年4月にライオン(株)さんに事務局のバトンを渡すことになりました。

これまでは、事務局が各事業の企画・実施の段取り、環境省との折衝、WEBサイト・事業計画・予算の管理を行う体制でした。2年間の事務局実務の経験と今後の協議会運営を考え、事務局を引き継ぐに当たり、事業担当制を提案しました。これにより、幹事企業は2つの事業を、各事業は2社で担当し、各事業の企画・実施を行い、事務局は環境省との折衝、WEBサイト・事業計画・予算の管理を行うことになりました。

当協議会のいいところは、自分事として参加するところだと思います。その意味では、他人任せにせず、誰でも幹事や事務局を務めることが望ましいと思います。

最後に、この10年間、エコ・ファースト推進協議会を支えてくださった皆様に感謝と敬意を表するとともに、さらなるエコ・ファースト制度の認知度向上とエコ・ファースト企業間のコラボレーションを目指し、加盟各社が自分事として、エコ・ファースト推進協議会に関与し、さらに発展していくことを期待ならびに祈念します。

※1 社名は当時のもの

エコ・ファースト推進協議会の発足と 初期の活動状況

岡田 淳吾

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
(当時:ライオン株式会社)

エコ・ファースト 推進協議会の発足

様々な業界における企業の環境保全活動の推進を図るため、「エコ・ファースト制度」が、環境省により2008年に創設されました(のち2010年現行制度となる)。それぞれの企業が環境保全に関する先進的な独自の取り組みを環境大臣に約束し認定を受けることになりました。認定を受けた企業がどんどん増え、エコ・ファーストの制度も次第に定着してきました。そのような状況下、エコ・ファースト制度の創設当初に認定を受けた(株)ビックカメラ、ユニー(株)、麒麟ビール(株)*、ライオン(株)、積水ハウス(株)、(株)INAX*の6社が発起人となり、協議会を立ち上げることとなりました。そして、2009年12月9日に認定企業23社が集まる「エコ・ファースト推進協議会」が正式に発足しました。この協議会発足に、もっともご尽力頂いたのが初代の議長会社である麒麟ビール(株)さんでした。その後、当社が議長会社を務め、現在の積水ハウス(株)さんへと引き継がれています。

エコ・ファースト 推進協議会への思い

当協議会の発足の意義、目的は、エコ・ファースト認定企業間の連携を強化し、共同で広報活動を行うことにありました。これがエコ・ファースト制度の認知拡大にもつながり、官民双方がWin-Winの関係を築けるとの思いで協議会を立ち上げた次第です。幸い、環境省様にも趣旨をご理解頂き、積極的なご支援を頂きながら協議会活動をスタートさせることができました。

官民の連携と、民間企業同士の自発的な協働を図るなどと、体の良いことを言いながら、もう1つの重要な目的は、各社が社内ではなかなか理解が得られない環境保全に対する施策について本音で語り合うことでした。もっと正直に言えば、情報交換という名の懇親会を開催することが最大の目的だったのかも知れません。加盟企業がそれぞれの得意分野でのスキルを活かしながら自主的に集い、様々なイベントを企画運営していきました。

協議会のモットーは「お金はないけれどエコにかける情熱だけは誰にも負けない。ボランティア精神で協議会を盛り立てながら、みんなで楽しもう」といった感じでした。メンバーの熱い思いと卓

越した行動力というか軽いノリで協議会活動をスタートさせたのです。

発足当時の活動

協議会の運営を軌道に乗せるため、環境に関するトピックスや加盟企業間での取り組み事例の紹介など、情報交換会を定期的を開催するようになりました。

発足直後の2010年には、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されたこともあり、このCOP10パートナーシップ支援事業として、締約国会議前後に「生物多様性公開シンポジウム in 名古屋」の開催(9.18)や「メッセナゴヤ」への出展(10.27～10.30)を行いました。さらに、「メッセナゴヤ」の会場では特設ステージを設けて、全国の小中学生から募集した「いろいろな生き物と一緒に生きる」ことを表現した「エコとわざ」コンクール(日本ことわざ文化学会審査・監修、環境省後援)の表彰式も実施しました。この際には、ユニー(株)さんに多大なご尽力とご支援を賜りました。



エコ・ファースト推進協議会COP10支援事業「生物多様性公開シンポジウムIN 名古屋」でのプレゼン(2010年9月18日)

加盟企業間の連携

協議会の活動が軌道に乗るにつれ、加盟企業間での協働も強化され、それぞれの加盟企業同士が連携企画を推進するようになりました。

例えば、当社は麒麟ビール(株)さん、ユニー(株)さんと共同で「商品を買って頂くことで、お客様自身にとっても小さな環境活動になる仕組み作り」を目的とした社会貢献型キャンペーンを展

開しユニー(株)さんの全店舗で実施しました。

こうした活動は、「エコ・ファースト推進協議会」のホームページで紹介するだけでなく、様々な媒体でも紹介して頂けるようになりました。こうして協議会の活動は次第に定着し、さらに発展して現在の活動に至っているものと思っています。



2011年度第1回情報交換会ワールドカフェの様子(2011年11月17日)

おわりに

これまでに記した協議会活動を、いつもご支援くださったのが環境省のご担当者様でした。さらに、そのご尽力のお陰で環境大臣はじめ省幹部の方々との意見交換などの機会も与えて頂けるようになりました。また、環境省主催の種々のイベントにも参加できるようになりました。協議会加盟企業の一部ではありますが、首相官邸での環境イベントにご招待頂き、各社の代表が自社の環境への取り組みをご説明したこともありました。私自身も社長に随行して官邸を訪問する機会を得たことも、今ではなつかしく楽しい思い出です。

最後に、何よりも発足当時から協議会を支えてくださっている環境省の皆様へ今一度、心より御礼申し上げます。また、これまで協議会の運営に携わってこられた加盟企業の関係者の皆様へ敬意を表するとともに、協議会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

※社名は当時のもの

誰もが知っている 「エコ・ファースト」を目指して

楠 正吉

積水ハウス株式会社 総務部理事

3代目の事務局担当

積水ハウス(株)は、ライオン(株)様から引き継いで、三代目議長社となり、2014年4月から2019年4月まで事務局を担当しています。(私は2018年初夏まで事務局長を担当)

話題は2008年に遡りますが、発足の頃を知る人が少なくなっているのが設立前の苦労話を紹介します。初年度認定の(株)ビックカメラ様、ユニー(株)様、麒麟ビール(株)*様、ライオン(株)様、(株)INAX*様と弊社の担当者が集まり、協議会を発足させようという話が持ち上がったのです。

総論は皆賛成なのですが、議長、副議長の選び方、事務局はどうする、会費、加盟勧誘、規約は、など課題は山積でした。6社のトップを発起人として呼びかけ文を作り、一つひとつ各社の担当者が知恵を絞って進めていきました。日比谷にあるレストランで何度か打合せを経て、メールも飛び交う中、何とか無事に設立総会を迎えることができました。

エコ・ファースト制度の目玉の一つが「約束式」「フォローアップ」と協議会の「総会」での環境大臣はじめ省幹部との各社トップのお目見えの機会です。企業の担当者にとっては、環境大臣へのコミットメントをトップが進捗報告するのですから、

一番気を使う瞬間です。これをいつ頃、どう進めていくか、ご担当者とよくやり取りをしました。

「エコ・ファースト」をもっと知ってもらおう

認定社にとっては、エコ・ファースト企業であることが、環境先進企業として消費者にも社員、取引先にも一目置かれるというのが理想です。そのための取り組みや様々な工夫を行ってきました。

環境省が呼びかけるキャンペーンには率先して協力してきました。担当時期では、新しくできた「COOL CHOICE」「できるだけ一回で受け取りませんか?」などです。また、各社でエコ・ファーストマークを目立つよう活用するキャンペーンなども推進しました。

また、日本経済新聞社に「エコ・ファースト企業」を仕掛けてもらい、制度と取り組み事例などを紹介することに。安倍総理にも応援メッセージをいただきました。とはいえ会費制の小さな組織です。加盟企業を口説いて回り、広告を出して頂いて成立させました。大変でしたが制度認知には大いに役立ったと思います。また、総会やイベントの際に、環境省記者クラブや各業界紙などへの声掛けも意識してきました。

東日本大震災後にも復興支援ができないかと

総会でもご意見をいただき、被災地の子どもたちの学習支援などを行っているNPOカタリバへの寄付を企画したり、仙台での環境イベントに子ども向けワークショップを持ちこんだり、被災地の加盟企業サイトを訪問するなど幅を広げました。

自社の話で恐縮ですが、2015年5月に茨城県古河市にある弊社関東工場内に「エコ・ファーストパーク」を開設しました。環境をテーマにした3つの実証実験住宅と生態系に配慮した庭、そして建設廃棄物リサイクルを担う資源循環センターからなる見学学習施設で、「次世代育成のための学びの場」として公開しています。このネーミングにも是非「エコ・ファースト」と環境省にも認めていただき、その後多くの行政、教育関係の方にも来場を頂いております。今後、他の加盟企業にもこうした輪が広がればと期待しています。

活動の輪は人の輪

当協議会は専任事務局がありません。どうしても議長社に負担がかかります。そこで、幹事会社に各イベントの担当班分けをし、それを軌道に乗せました。幹事会社が自主的に企画を進める今のスタイルは開かれた協議会運営をする上でも大変良かったと思っています。それでも経験豊富なご担当者のお力に依存しすぎてしまう傾向は否めません。いつも幹事の方々のパワーと熱意に頭の下がる思いでした。改選期には議長、副議長社が固定化しないよう、新規参加などお声掛けしてきましたが、中々簡単なことではありませんでした。これは今後も課題として残っています。

加盟企業の担当者にとってメリットを感じていただくことは意識してきました。その一つが情報交換会と懇親会です。また、関西に本社を置く「エコ・ファースト企業」の交流会として持ちまわりで企画している「エコ・ファーストin 関西」では、(株)滋賀銀行様の発案で始まった「琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア」は各社の社員とその家族が大勢集まる一大イベントとして定着しています。

第二部が盛り上がるのはいずれの会も同じ。

各社の施設を見学し、環境活動への思いを伺って意見交換。場所を変えて飲みニケーション。お酒もお話も好きな人たちの輪が広がりました。ご担当を卒業されてからも交流が続くケースも多く、そうした人の輪の温かさは協議会活動が息長く発展している原動力かと思っています。



琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア2017(2017年9月2日)



サステナブルカフェ2017東京(2017年10月14日)

環境省政策評価室ご担当者のご苦労

協議会活動が安定し、総会やイベント時に環境大臣をはじめ、省の幹部の方にお出まし頂くことも増えました。政策評価室の歴代のご担当者の方には調整や資料作成など、本当にご尽力頂きました。当時は深夜にメールが飛び交うことも多々。私たちはそれぞれ好き勝手なことを言ったりしてきましたが、前例のない事業や企画など、お忙しい時期にも快く協力頂いたご担当者の皆様のお蔭で協議会もここまで成長できたのだと思います。幹事会にも出席いただけるようになったのも心強いことでした。

末筆になりましたが、幹事会社、加盟企業ご担当の方々、関係団体、報道頂いたメディアの皆様など、協議会の10年を支えて下さった全ての方々へ深くお礼申し上げます。ますますの協議会の発展をお祈りいたします。

※社名は当時のもの



エコ・ファースト推進協議会 発足10周年に寄せて

内藤 冬美

環境省大臣官房総合政策課政策評価室長

はじめに

エコ・ファースト推進協議会(以下、推進協議会)が発足10周年を迎えられたことに対し、心からお祝い申し上げます。制度創設時から認定企業数も45社まで増え、各社による環境取組のレベルも高まるとともに、認定企業間での業種をまたがる取り組みも年々充実してきており、この間推進協議会がなされた多大な貢献に対し、改めて敬意を表したいと思います。

この場をお借りして、エコ・ファースト企業の皆様と共に歩んできたこの10年間について、少し振り返って見てみましょう。

エコ・ファースト制度の背景と狙い

エコ・ファースト制度は、2008年4月にスタートした制度で、企業が環境大臣に対し、気候変動対策、資源循環など自社の環境保全に係る取組を約束し、環境大臣がそれを「先進的、独自の、かつ業界をリードするような取組」であることを認定するというものです。認定された企業は「エコ・ファーストマーク」を、名刺や会社パンフレット、バッジ、広告などで使用することができます。

従来、環境行政では、環境に悪い行為を規制するのが伝統的政策手法でしたが、この制度は

むしろ、自主的に目標設定して先進的取り組みを行う企業が評価されることにより、トップランナー企業が牽引役となり、業界全体の環境取組の底上げを図っていくことを目的とした新しい政策手法として始まりました。

折しも2008年夏には洞爺湖サミットが開催され、環境・気候変動もテーマとなったため、環境への機運も高まり、認定企業数は翌2009年には23社まで増えました。

推進協議会の発足と活動

制度発足から1年余が経過した2009年には、環境保全活動のさらなる充実強化等を連携・切磋琢磨しながら推進していくことを目的として、自主運営組織である推進協議会が、エコ・ファースト企業自身によって発足されました。

主な目的は、①参加企業によるエコ・ファーストの約束の取組みの強化、②参加企業と環境行政との連携の強化、③参加企業間の連携強化、④エコ・ファースト企業共通の広報活動の展開、⑤その他協議会の目的に適う事業の推進、とされています。

国際生物多様性年である翌2010年には、名古屋で生物多様性条約COP10が開催され、

COP10パートナーシップ事業である「生物多様性 公開シンポジウム in 名古屋」が推進協議会によって開催されました。その後も、小中学生に環境をテーマにしたことわざを考えてもらう「エコとわざ」コンクールや、釣りを楽しみつつ琵琶湖の生態系について理解を深める「琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティア活動」などのイベントが例年開催されているほか、近年では企業や社会人とのコミュニケーションを目的として、加盟企業の環境取組を紹介する「エコ・ファーストシンポジウム」も開催されています。また、組織運営に当たり、総会、幹事会、情報交換会が定例で行われています。

環境政策との連携

気候変動対策、資源循環の推進、生物多様性の保全など、環境の課題は多岐にわたり、いずれも事業者の皆様との連携が必要なものばかりです。このため、推進協議会には、発足以来、エコライフ・フェアへの参加のほか、Fun to Share、COOL CHOICE、「できるだけ1回で受け取りませんか」、プラスチック・スマート、などの各種政策キャンペーンにおいても積極的に連携頂き、民間企業側の推進役を果たして頂きました。昨年ポーランドで開催された気候変動枠組条約COP24に際しては、気候変動対策に関する取組意欲の向上を目指す「タラノア対話」に、協議会としてのサブミッションを策定し、国連や環境省のポータルに掲載されました。

エコ・ファースト制度と推進協議会の意義

エコ・ファースト企業と推進協議会加盟企業は、この10年間で45社に拡大し、その業種の幅も広がり、各社それぞれが独自の野心的な目標を設けて業界の環境対策をリードされてきています。それに加え、推進協議会による業種横断的な活動により、10年間の取組みの蓄積を経て、社会的な評価や認知度も高まってきました。新規認定の問い合わせも絶えませんが、新規企

業がどう取り組んで良いものか思案していると、異業種の先輩企業の方たちが親切に色々指南して下さることも推進協議会の大きな財産と言えます。

一昔前を振り返って見ると、企業によるCSR活動は、本業と切り離されたところで行われていました。今日では、環境という課題を単なるリスクやコストではなくむしろビジネスチャンスと捉え、本業の中に組み入れ、環境と成長を好循環させていくことが求められています。このような時代において、エコ・ファースト企業による営みは、まさにその先進事例として誇れるものですし、業界を益々リードして頂けるとおもいます。



第16回エコ・ファースト認定式(2018年8月7日)

おわりに

異常気象も増え、気候変動の懸念は確実に高まり、海洋プラスチックごみも世界的な問題となっています。環境省としても、これらの課題に真摯に向き合い、エコ・ファースト企業の皆様と手を携えて、持続可能な社会の実現を目指していければ幸いです。



エコ・ファースト推進協議会 規約

1. 名称

本会は名称を「エコ・ファースト推進協議会」とする。

2. 構成企業

協議会は、環境大臣に対してエコ・ファーストの約束を行ったエコ・ファースト企業であって、協議会の趣旨に賛同し、第8項に定める会費を協議会に納めた企業(以下、参加企業)により組織される。

3. 目的

協議会の目的は、以下に掲げる事項とする。

- ①参加企業の一層の「エコ・ファーストの約束」取り組みの強化
- ②参加企業と環境行政との連携強化
- ③参加企業間の連携強化
- ④エコ・ファースト企業共通の広報活動実施
- ⑤その他協議会の目的に適う事業の推進

4. 機関

- (1)協議会には、総会、議長、副議長、幹事、監事 及び 事務局を置く。
- (2)総会は協議会全般の意思決定を行う。
- (3)議長は、総会において参加企業の互選により選出された企業(以下、議長企業)の代表取締役とし、協議会を代表する。
任期は2年とし再選を妨げない。
- (4)副議長は、総会において参加企業の互選により選出された企業(以下、副議長企業とし、複数社の設置を妨げない。)の代表取締役とする。任期は2年とし再選を妨げない。
- (5)幹事は議長会社及び副議長企業の環境CSR担当責任者とし、協議会の運営にあたる。任期は2年とし再選を妨げない。
- (6)監事は、副議長企業の中から議長が選任し、出納の監査をおこなう。
- (7)事務局は、議長企業に設置する。

5. 協議会運営

- (1)総会は議長の招集により年1回以上開催する。
- (2)参加企業は、前項の規定に関わらず総会の開催を議長に請求することができる。
- (3)総会は、協議会の重要事項について決定、承認をおこなう。
- (4)幹事会は必要に応じ議長会社幹事の招集により開催する。

6. 協議会の活動

協議会においては、主として下記事項について活動を行う。

- ①エコ・ファースト企業合同での講演会・勉強会・情報交換会の開催
- ②エコ・ファースト企業合同ホームページの立上げ・運営など広報活動の推進
- ③エコ・ファースト企業合同での展示会出展など

7. 事業年度

協議会の事業年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。

8. 会費

- (1)協議会の共通活動に必要な経費として、事務局は参加企業から年度ごとに会費を徴収する。
- (2)会費の額は総会で定める。
- (3)参加企業から徴収した会費は事務局が管理し、協議会の共通活動に充てる。
- (4)事務局は、会費の出納について事業年度ごとに協議会に報告する。
- (5)協議会の活動で特別に費用を要する場合は当該活動に参加する参加企業から実費を徴収することができる。

9. 加盟

以下の条件を満たし、当協議会に加盟しようとする企業は加盟届を議長に提出し、幹事会の承認を受けなければならない。

- (1)エコ・ファースト企業に認定された企業であること。
- (2)協議会の趣旨に賛同した企業であること。

10. 脱退

- (1)エコ・ファースト企業の認定を取り消された企業もしくは辞退した企業は脱退届を議長に提出し、脱退しなければならない。
- (2)加盟企業は脱退しようとするときは、脱退届を議長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

以上

沿革 2009年12月9日制定

2011年4月22日改定

エコ・ファーストのこれまで

年 月日	2008					2009					2010					2010年度										2011年度							
	4.15	4.16	4.21	6.24	7.1	11.11	3.9	12.9	1.14	2.22	2.25	4.1	5.7	7.7	7.19	7.26	9.18	10.30	10.30	11.4	11.9	12.20	2.19	2.22	3.17	3.31	4.22	5.18	5.31	6.5	7.4	7.8	
対象								加盟企業	官庁	加盟企業	一般	一般	世界	加盟企業	一般	加盟企業	企業	企業	中小 学生	一般	加盟企業	加盟企業	一般	加盟企業	一般	官庁	加盟企業	加盟企業	官庁	加盟企業	一般	一般	加盟企業
事柄	エコ・ファースト制度創設	エコ・ファースト企業第1回認定としてビックカメラが認定	エコ・ファースト企業第2回認定としてユニーが認定	エコ・ファースト企業第3回認定として麒麟ビール、ライオン、INAX、積水ハウスが認定	エコ・ファースト企業第5回認定としてリマテック、三洋商事、住友化学、全日本空輸、損害保険ジャパン、ダイキン工業、タケエィ、電通、東京海上日動火災保険、日本興亜損害保険が認定	エコ・ファースト企業第4回認定として日産自動車、滋賀銀行、NECパーソナルコンピュータ、三菱自動車工業が認定	エコ・ファースト認定企業23社で「エコ・ファースト推進協議会」を発足	「チャレンジ25キャンペーン」キックオフイベントへ参加	生物多様性に関する勉強会セミナーを開催(場所：INAXショールーム・41名が参加)	「チャレンジ25キャンペーン」として日本経済新聞に広告を掲載	エコ・ファースト推進協議会オフィシャルサイト開設	COP10パートナーシップ事業認定取得	2010年度第1回情報交換会を開催(場所：麒麟ビール横浜工場・41名が参加)	ユニー・ライオン・麒麟ビール3社共同取り組みで「社会貢献型キャンペーン(アピタ・ピアゴ・ユーホーム全店)」を実施以降、毎年実施	新たに7社が協議会に加盟(川島織物セルコン、クボタ、熊谷組、戸田建設、ニッポンレンタカー・サービス、三菱重工パワーキング、ワタミ)	COP10パートナーシップ事業「生物多様性公開シンポジウム IN 名古屋」を開催	「メッセ名古屋2010」へパネルを出展	COP10パートナーシップ事業第1回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催	ビックカメラ新宿西口店に「積水ハウスリフォームコーナー」を開設	ビックカメラ×三菱自動車が、電気自動車「i-MiEV」の普及推進に関する協力協定を締結	新たに2社が協議会に加盟(辻本郷税理士法人、富士通)	ユニー×日産自動車・三菱自動車でEV試乗会を開催	2010年度第2回情報交換会を開催(場所：全日本空輸 羽田空港講堂・55名が参加)	循環型社会ライフスタイル・Webサイト「Re・Style」特集に掲載	ビックカメラ取締役CSRO加藤氏が選出	中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会小委員会委員にエコ・ファースト推進協議会監事としてビックカメラ取締役CSRO加藤氏が選出	三菱自動車が協議会脱退	エコ・ファースト推進協議会2011年度通常総会開催	「エコ・ファースト2011年夏の節電の約束の会」を実施(25社が参加)	新たに5社が協議会に加盟(二条工務店、エフピコ、スーパーホテル、プリチストン、リクルート)	「エコライフ・フェア2011」に出展 松本環境大臣が視察	「国際森林年記念シンポジウム」ポスターセッションに出展	「グリーンウェイブ2011」に加盟各社が参加
加盟企業数							23社						30社							32社				31社				36社					
環境大臣 (在任期間)	鴨下一郎 2007.8.27~2008.8.2					斉藤鉄夫 2008.8.2~2009.9.16					小沢鋭仁 2009.9.16~2010.9.17					松本龍 2010.9.17~2011.6.27										江田五月 2011.6.27~9.2							
議長											麒麟ビール										麒麟ビール												
副議長											ビックカメラ ユニー ライオン					INAX 積水ハウス					ビックカメラ ユニー ライオン						INAX 積水ハウス						



2008.4.21 ユニーの認定式の様子(左は鴨下環境大臣)



2009.12.9 協議会発足(中央は小沢環境大臣)



2010.7.7 2010年度第1回情報交換会開催以来、毎年2回を定期的に開催



2010.9.18 COP10パートナーシップ事業「生物多様性公開シンポジウム IN 名古屋」



2011.2.22 2010年度第2回情報交換会ANA機体メンテナンスセンター視察



2011.4.22 2011年度通常総会開催以来、毎年4月に開催

年	2011年度								2012年度								2013年度							2014年度							
月日	10.1	11.17	12.17	12.17	3.2	3.8	3.13	4.24	6.3	6.8	8.1	9.4	9.27	10.18	11.22	11.26	12.15	12.15	2.21	4.24	6.2	9.7	9.27	12.14	12.14	3.6	3.11	3.26	4.14	5.30	6.8
対象	加盟企業	加盟企業	小学生	一般	官庁	加盟企業	加盟企業		加盟企業	一般	一般	加盟企業	加盟企業	一般	加盟企業	一般	小学生	小学生	一般	加盟企業	加盟企業	一般	加盟企業	加盟企業	官庁	加盟企業	一般	一般			
事柄	森林保護活動「東京グリーンシップ・アクション」を実施(5社25名が参加) 2011年度第1回情報交換会を開催(場所…LIXIL本社・62名が参加) 第2回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催(テーマ…森林) エコプロダクツ2011で「エコ・ファーストスタンプラリー」を開催(配布…4,800枚 完走者…972名) 国際森林年に関して林野庁長官より感謝状を受贈 2011年度第2回情報交換会を開催(場所…ライオン研究開発本部・55名が参加) 「グリーンウェイブ2012」に加盟各社が参加								エコ・ファースト推進協議会2012年度通常総会開催 「エコライフ・フェア2012」に出展 細野環境大臣が視察 環境省スーパークールビズ第二弾イベントへ協力 新たに1社が協議会に加盟(大成建設) 2012年度第1回情報交換会を開催(場所…損害保険ジャパン本社・55名が参加) 新たに1社が協議会に加盟(ブラザー工業) 「環境メッセージEXPO2012」を開催 新たに1社が協議会に加盟(アジア航測) 「各企業の環境教室」を公開 第3回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催(テーマ…自然の力) エコプロダクツ2012で「エコ・ファーストスタンプラリー」を開催								エコ・ファースト推進協議会2013年度通常総会開催 「エコライフ・フェア2013」に出展 石原環境大臣が視察 第1回琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティアを開催(197名が参加) 2013年度第1回情報交換会を開催(場所…三菱重工パークینگ本社・62名が参加) 第4回「エコとわざ」コンクール2013表彰式を開催(テーマ…水) エコプロダクツ2013で「エコ・ファーストスタンプラリー」を開催 2013年度第2回情報交換会を開催(場所…キリン本社・64名が参加) 企業統合により三菱重工パークینگが協議会脱退 環境省「Fun to Share」キックオフイベントに演議長(ライオン)が参加							エコ・ファースト推進協議会2014年度通常総会開催 環境省「スーパークールビズ2014」キックオフイベントへ参加(代表…積水ハウス) 「エコライフ・フェア2014」に出展 北川環境副大臣が視察							
加盟企業数									37社								38社							38社							
環境大臣	細野豪志								長浜博行								石原伸晃														
(在任期間)	2011.9.2~2012.10.1								2012.10.1 ~12.26								2012.12.26 ~2014.9.3														
議長	キリンビール								ライオン								ライオン							積水ハウス							
副議長	ビックカメラ INAX ユニー 積水ハウス ライオン								ビックカメラ INAX ユニー 積水ハウス キリンビール 全日本空輸								ビックカメラ LIXIL ユニー 積水ハウス キリンビール 全日本空輸							ビックカメラ ライオン ユニー LIXIL キリンビール 全日本空輸							



2011.10.1 東京グリーンシップ・アクションを主催



2012.3.2 国際森林年に関して林野庁長官より感謝状を受贈



2012.6.8 環境省主催のスーパークールビズ第二弾イベントにエコ・ファースト企業から3名がモデルとして登場



2012.12.15 エコとわざ表彰式を開催



2013.9.7 琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア



2014.3.26 Fun to Share キックオフイベント

年	2014年度													2015年度										2016年度									
月日	6.8	6.18	8.6	9.6	9.17	10.9	10.10	10.28	10.29	11.9	12.13	2.25	3.2	4.7	6.7	9.5	9.15	10.16	11.13	11.21	11.25	12.12	1.9	1.31	2.1	3.2	4.5	4.11	4.28	5.11	5.15	5.22	6.30
対象	一般	加企業	官庁	家族	加企業	官庁	加企業	一般	官庁	一般	小学生	一般	加企業	加企業	一般	家族	加企業	官庁	官庁	大学生	企業	小学生	大学生	一般	加企業	加企業	加企業	加企業	一般	企業	一般	一般	加企業
事柄	「スーパークールビズ・ファッションショー」へ協力(代表: キリンビール、ライオン) 第13回「エコ・ファースト」認定式兼平成26年度フォローアップ報告会(第1弾)を開催 環境省「子ども霞が関見学デー」で実施するゲームの景品提供に協力 第2回琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティアを開催(241名が参加) 2014年度第1回情報交換会を開催(場所: 戸田建設本社・54名が参加) 望月環境大臣を、和田議長(積水ハウス)が表敬訪問 加盟企業2社(損保ジャパンと日本興亜損害保険)が企業統合(損保ジャパン日本興亜HG) 「エコ・ファースト 環境メッセージEXPO2014」を開催 加盟企業2社(損保ジャパンと日本興亜損害保険)が企業統合(損保ジャパン日本興亜HG) 「ESD」ユネスコ世界会議併催イベント」に出展 大村愛知県知事が視察 第5回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催(テーマ: 地球と私たちの未来の環境) 日本経済新聞に安倍首相からのメッセージと共にエコ・ファースト制度と協議会を紹介する広告(4面)を掲載 2014年度第2回情報交換会を開催(場所: 資生堂本社・53名が参加) 2015年度第1回情報交換会を開催(場所: 山武の森交流センターあららぎ館、ワタミファーム山武農場・37名が参加) 第3回琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティアを開催(239名が参加) 「エコライフ・フェア2015」に出展 望月環境大臣が視察 エコ・ファースト推進協議会 2015年度通常総会開催													「地球環境行動会議(GEA)2015」でパネル展示及びリーフレット配布(主催: 地球環境行動会議) 丸川環境大臣を、和田議長(積水ハウス)が表敬訪問 「エコ・ファースト サステナブルカフェ」を開催(62名が参加) 第1回「エコ・ファーストシンポジウム」を開催(180名が参加) 「環境おじさん御饒舌会」を開催(共催: 特定非営利活動法人エコ・リーグ) 「ダメだっちゃん温暖化」宮城県民会議/宮城県が主催の「みやぎ環境フォーラム」に参加 2015年度第2回情報交換会を開催(場所: 積水ハウス エコ・ファーストパーク・44名が参加) 東北でのエコ・ファースト企業視察会を実施(積水ハウス東北工場、三洋商事仙台RE、タケエイ(グリーンアローズ東北)岩沼リサイクルセンター) 「エコ・ファースト×COOL CHOICE」普及プロジェクト始動 エコ・ファースト推進協議会 2016年度通常総会開催 新たに1社が協議会に加盟(西松建設)										「ロハスデザイン大賞2016新宿御苑展」に出展 G7富山環境大臣会合に合わせ「アピタエコ博」に出展 第2回「エコ・ファーストシンポジウム」を開催(約170名が参加) 「エコ・ファースト×COOL CHOICE」普及プロジェクト始動									
加盟企業数	37社													38社										39社									
環境大臣(在任期間)	望月義夫 2014.9.3 ~2015.10.7													丸川珠代 2015.10.7 ~2016.8.3																			
議長	積水ハウス													積水ハウス										積水ハウス									
副議長	ビックカメラ ユニー キリンビール			ライオン LIXIL 全日本空輸												ビックカメラ ユニー キリン			ライオン LIXIL 全日本空輸			戸田建設 大成建設											



2014.11.9 「ESDユネスコ世界会議併催イベント」に出展



2015.4.7 2015年度通常総会開催



2015.6.7 エコライフ・フェア2015



2015.11.13 議長の環境大臣表敬訪問
(写真右丸川環境大臣)



2015.11.21 エコ・ファースト サステナブルカフェ



2016.5.11 第2回エコ・ファーストシンポジウム

年	2016年度										2017年度										2018年度														
月日	6.5	9.3	9.15	9.20	9.30	10.23	12.03	12.10	2.15	3.29	4.12	6.4	9.2	9.20	9.21	9.22	10.1	10.14	12.2	12.9	2.22	4.11	6.3	9.20	9.21	10.1	10.4	10.31	11.26	12.8	2.21				
対象	一般	家族	加盟企業	官庁	小学生	大学生	大学生	小学生	加盟企業	官庁	加盟企業	一般	家族	官庁	加盟企業	小学生	加盟企業	大学生	大学生	小学生	加盟企業	加盟企業	一般	加盟企業	小学生	加盟企業	世界	企業	官庁	小学生	加盟企業				
事柄	「エコライフ・フェア2016」に出展 丸川環境大臣が視察 第4回琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティアを開催(256名が参加) 2016年度第1回情報交換会を開催(場所…全日本空輸羽田空港機体工場 56名が参加) 山本環境大臣を、和田議長(積水ハウス)が表敬訪問 被災地の放課後学校「コラボ・スクール」に寄付金を贈呈 「エコ・ファースト サステナブルカフェ2016 in 東京」を開催 「エコ・ファースト サステナブルカフェ2016 in 関西」を開催 第7回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催(テーマ…美しい地球) 34名が参加) 2016年度第2回情報交換会を開催(場所…アットビジネスセンター東京駅302会議室) COOL CHOICE できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーンに賛同										エコ・ファースト推進協議会 2017年度通常総会開催 「エコライフ・フェア2017」に出展 関環境副大臣が視察 第5回琵琶湖での外来魚駆除釣りボランティアを開催(213名が参加) 中川環境大臣を、和田議長(積水ハウス)が表敬訪問 2017年度第1回情報交換会を開催(場所…戸田建設技術研究所・43名が参加) 被災地の放課後学校「コラボ・スクール」に寄付金を贈呈 新たに1社が協議会に加盟(住友化学) 「エコ・ファースト サステナブルカフェ2017 in 東京」を開催 「エコ・ファースト サステナブルカフェ2017 in 関西」を開催 第8回「エコとわざ」コンクール表彰式を開催(テーマ…エコな暮らし) 2017年度第2回情報交換会を開催(場所…東京都スーパーエコタウン(ビッグカメラ・タケエイ・SPECの施設)・41名が参加) エコ・ファースト推進協議会 2018年度通常総会開催										エコ・ファースト推進協議会 2018年度通常総会開催 「エコライフ・フェア2018」に出展 伊藤環境副大臣、ともしぎ環境副大臣が視察 2018年度第1回情報交換会を開催(場所…キリンビール横浜工場 63名が参加) 被災地の放課後学校「コラボ・スクール」に寄付金を贈呈 新たに5社が協議会に加盟(アスクル、清水建設、大和ハウス工業、東洋ライス、八十二銀行) COP24における「タラノア対話」に参加 第3回「エコ・ファースト シンポジウム」を開催(148名が参加) 原田環境大臣を、稲垣議長(積水ハウス)が表敬訪問 第9回「エコとわざ」コンクール表彰式を実施(テーマ…美しい自然) 2018年度第2回情報交換会を開催(場所…プラザミュージアム・48名が参加)														
加盟企業数											40社										45社														
環境大臣 (在任期間)	山本公一 2016.8.3~2017.8.3										中川雅治 2017.8.3~2018.10.2										原田義昭 2018.10.2~														
議長	積水ハウス										積水ハウス										積水ハウス														
副議長	ビックカメラ ユニー キリン			ライオン LIXIL 全日本空輸			戸田建設 大成建設							ビックカメラ ユニー キリン			ライオン LIXIL 全日本空輸			戸田建設 大成建設							ビックカメラ ユニー キリン			ライオン 全日本空輸 タケエイ			戸田建設 スーパーホテル 大成建設		



2016.9.30 被災地の放課後学校「コラボ・スクール」に寄付



2016.12.10 エコとわざ表彰式



2017.3.29 COOL CHOICE できるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン ~みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト~ に賛同



2018.9.20 2018年度第1回情報交換会



2018.10.31 第3回エコ・ファーストシンポジウム



2018.11.26 原田環境大臣を稲垣議長が表敬訪問

「エコとわざ」コンクール

9回を数える

協議会では、2010年に全国の小中学生の環境意識の向上を目指し「エコとわざ」コンクールを開始しました。この取り組みは国際生物多様性年に合わせ、名古屋でCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が開催されることから、「COP10パートナーシップ事業」としてスタートしました。審査委員会にも監修頂いている日本ことわざ文化学会（会長・時田昌瑞氏）のご協力の下、毎年メインテーマを変えながらもこれまでに9回実施し、トータルで小学1年生から中学3年生まで、全国そして海外からも、7,714点もの応募を頂くまでになりました。

2013年からは最上位賞として「環境大臣賞」を創設。当初からの特色である協賛企業賞を設け、各社も子どもたちの力作を商品やポスター、CSRレポートで紹介したり、小中学校へも報告するなど、次世代を担う子どもたちの環境意識啓発に貢献してきました。表彰式は、第1回はCOP関連で名古屋でしたが、以降は毎年日本最大の環境展示会「エコプロ」の会場で盛大に開催し、注目を集めてきました。



募集広告(2010年)

第1回 2010年度 「いろいろな生き物と一緒に生きる」

応募総数484点 企業賞16点
表彰式：メッセ名古屋2010(10月30日)
後援：環境省

来賓：環境省 中部環境事務所長 市原信男様
日本ことわざ文化学会 会長 森洋子様

 温暖化 去年の虫と ちがう虫	 トンボのメガネ 水がきれいか 見張っている	 くまをおうより 森をそだてよ	 僕らが守るよ！ 地球の未来
横浜市立田奈小学校6年 池田 春花 さん	浦和明の星女子中学校1年 見瀬 知里 さん	東京都杉並区四宮小学校3年 湯川 真有 さん	佐久市立中込小学校3年 関 颯斗 さん

第2回 2011年度 「森林のはたらき・大切さ」

応募総数558点 企業賞22点
表彰式：エコプロダクツ2011(東京ビッグサイト12月17日)
後援：環境省、林野庁

来賓：環境省 大臣官房政策評価広報課課長 高橋康夫様
日本ことわざ文化学会 事務局長 山口政信様

 心の気が 地きゅうの 木を育てる	 森の中 葉っぱのトンネル 地球(ほこ)冷やす	 息してる 森は地球を 生かしてる
常滑市立常滑西小学校2年 伊藤 嘉基 さん	知多市立東部中学校3年 藤田 凌平 さん	伊勢市立城田小学校6年 晝河 梨子 さん

第3回 2012年度 「地球と人にやさしいエネルギー」

応募総数681点 企業賞24点
表彰式：エコプロダクツ2012(東京ビッグサイト12月15日)
後援：環境省

来賓：環境省 大臣官房政策評価広報課 馬場清様
日本ことわざ文化学会 理事 森洋子様

 おひさまの ひかりがよるに つかえたら	 地球から 余分な上着を ぬがせよう	 北かぜも でんきになったら あったかい
名古屋市立牧野小学校1年 矢田 侑夢 さん	本庄東高等学校付属中学校1年 篠原 雅人 さん	横浜市立幸ヶ谷小学校1年 宮本 樹季 さん

第4回 2013年度 「水と環境、水の恵み、水の大切さ」

応募総数 843点 企業賞26点
表彰式：エコプロダクツ2013(東京ビッグサイト 12月14日)
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

来賓：環境省 事務次官 谷津龍太郎様
日本ことわざ文化学会 理事 森洋子様
金沢大学大学院 人間社会環境研究科 准教授 香坂玲様

 なつのあそび みずやりするよ ちようがのむ	 無駄な水は 地球の なみだだよ	 水が好き 人が好き 節水する君が もっと好き
常滑市立常滑西小学校1年 小川 陽菜乃 さん	刈谷市立富士松北小学校5年 中川 桃奈 さん	本庄市立本庄西中学校1年 福島 敏明 さん

※所属・学年・肩書等は表彰当時のものです。

第5回 2014年度 「地球と私たちの未来の環境を守るために考えよう！」

応募総数1,299点 企業賞27点 来賓：環境省 大臣官房長 森本英香様
表彰式：エコプロダクツ2014(東京ビッグサイト 12月13日) 日本ことわざ文化学会 理事 森洋子様
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

 伝えよう 青い地球の 赤信号	 エコ意識 考えるのも エコとわざ	 雨あがり、 ためたバケツを のぞいたら、 空のじが うつつたよ
本庄市立西中学校2年 福島 敏明 さん	東大阪市立玉川小学校6年 小泉 奈津美 さん	常滑市立鬼崎北小学校4年 倉田 叶望 さん

第7回 2016年度 「美しい地球を未来につなぐために、私たちは何をしたらよいか」

応募総数953点 企業賞27点 来賓：環境省 大臣官房審議官 山本昌宏様
表彰式：エコプロ2016(東京ビッグサイト 12月12日) 日本ことわざ文化学会 副会長 山口政信様
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

 ちりも積もれば 山となる エコが積もれば 地球が輝く	 木を植えて 次の世代へ 緑のたすき	 種ひとつ わたしの瞳に 森林(もり)映る
東大阪市立玉川中学校2年 森田 友梨 さん	東村山市立八坂小学校3年 本橋 隼人 さん	高砂市立米田西小学校6年 杉原 杏由子 さん



2014年のエコとわざ表彰式

募集広告(2014年)

第8回 2017年度 「未来の地球を守るために、私たちができるエコな暮らし」

応募総数737点 企業賞27点 来賓：環境省 大臣官房審議官 米谷仁様
表彰式：エコプロ2017(東京ビッグサイト 12月9日) 日本ことわざ文化学会 理事 森洋子様
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

 ちきゅうのえ あおとみどり かきたいな	 電気消し 名月愛でる エコな夜	 物心つく前の エコ心
大阪市立東小路小学校1年 中田 理仁 さん	浦安市立日の出中学校2年 竹田 真亜 さん	神戸海星女子学院小学校4年 藤田 あまね さん

第6回 2015年度 「『気候変動・地球温暖化』を防ぐために私たちは何をしたらよいか?」

応募総数1,529点 企業賞26点 来賓：環境省 事務次官 関荘一郎様
表彰式：エコプロダクツ2015(東京ビッグサイト 12月12日) 日本ことわざ文化学会 理事 森洋子様
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

 省エネが 地球の熱の 処方箋	 キャンプって きついた いっもの つかいすぎ	 リビングで 家族のエコわざ 発表会
知立市立知立小学校5年 長谷川 由奈 さん	愛知県東郷町立兵庫小学校1年 中川 泰我 さん	名古屋市長が丘小学校6年 小林 さくら さん

第9回 2018年度 「美しい自然を未来に残すために、私たちは何をしたらよいか?」

応募総数630点 企業賞29点 来賓：環境省 大臣官房審議官 和田篤也様
表彰式：エコプロ2018(東京ビッグサイト 12月8日) 日本ことわざ文化学会 副会長 山口政信様
後援：環境省 協力：全国小中学校環境教育研究会

 未来の計は エコにあり	 ちりも積もれば るり色の海を 脱プンで	 せかいじゅうの 子ごまで エコでもサミット
大町町立大町中学校2年 下山 樹 さん	仙台市立金剛沢小学校5年 佐藤 恵音 さん	東近江市立蒲生西小学校2年 和田 昂志郎 さん

※所属・学年・肩書等は表彰当時のものです。



加盟企業一覧（加盟順）

- 株式会社ビックカメラ
- ユニー株式会社
- キリン株式会社
- ライオン株式会社
- 株式会社 LIXIL
- 積水ハウス株式会社
- 日産自動車株式会社
- 株式会社滋賀銀行
- NEC パーソナルコンピュータ株式会社
- リマテックホールディングス株式会社
- 三洋商事株式会社
- 全日本空輸株式会社
- ダイキン工業株式会社
- 株式会社タケエイ
- 株式会社電通
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 住友ゴム工業株式会社
- 株式会社資生堂
- 株式会社ノーリツ
- 日本ミシュランタイヤ株式会社
- 株式会社川島織物セルコン
- 株式会社クボタ
- 株式会社熊谷組
- 戸田建設株式会社
- ニッポンレンタカーサービス株式会社
- ワタミ株式会社
- 辻・本郷税理士法人
- 富士通株式会社
- 株式会社一条工務店
- 株式会社エフピコ
- 株式会社スーパーホテル
- 株式会社プリチストン
- 株式会社リクルート
- 大成建設株式会社
- ブラザー工業株式会社
- アジア航測株式会社
- SOMPO ホールディングス株式会社
- 西松建設株式会社
- 日本航空株式会社
- 住友化学株式会社
- 清水建設株式会社
- 東洋ライス株式会社
- アスクル株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- 株式会社八十二銀行

エコ・ファースト推進協議会の2030年ビジョン

エコ・ファースト推進協議会は2008年の設立以来、環境大臣の認定を受けた環境先進企業として、業界を超えた繋がりを活かし、「地球環境保全」と「地球社会全体の持続可能な発展」を目標にし、環境保全活動の充実強化に取り組んで参りました。本協議会に加盟する「エコ・ファースト企業」45社の売上高の合計は60兆円※にもものぼり、私たちの活動は一定の社会的影響力があると認識しています。

エコ・ファースト推進協議会は、協議会及び加盟企業の利益創造による事業の発展を意識した活動を展開し、当該分野におけるリーダー的役割を果たしていきたいと考えています。

その活動の先にあるのは国連が採択した持続可能な開発目標「SDGs」の達成であり、これからも環境保全に関して、影響力・発信力の向上に努めます。

※ 海外での売り上げを含む

脱炭素社会の形成に向けて

私たちは、各加盟企業が保有する環境技術の開発・活用によって、利益創造による発展と、事業活動の中で発生する温室効果ガスの排出量低減の両立(デカップリング)を進めます。また加盟企業間での連携・協働により、その効果を一段と高いレベルに結び付けるよう、情報共有を進めます。その上で創エネ・省エネに貢献する製品・サービスの開発・商品化を推進します。

例えば

- ・事業活動として
新しい環境技術の開発、自然エネルギー、バイオ燃料の活用など
- ・商品として
ZEB/ZEH、EV、ESG投資/融資など



循環型社会の形成に向けて

私たちは、循環型社会形成のために、省資源化・再資源化の活動を推進しながら、持続可能な社会形成に寄与する製品・サービスを提供します。そのために、より多くのステークホルダーと共に歩み、街や人々の生活そのものが「エコ・ファースト」になることを目指していきます。

例えば

- ・事業活動として
ゼロ・エミッション、サプライヤーとの協働など
- ・商品として
容器包装リサイクル、再資源化商品など



自然との共生に向けて

私たちは、各加盟企業の事業や活動において、豊かな自然を創出・保全し、自然と共生する社会の形成を推進します。そのために事業活動や製品・サービスが及ぼす自然環境への影響を最小限とします。

例えば

- ・事業活動として
生物多様性対応、国土強靱化対応など
- ・商品として
自然環境配慮商品など



環境コミュニケーション活動の推進

私たちは、加盟企業が業種の枠を超え、社会に対して環境保全に関する積極的な情報発信と、各社で保有する技術や取り組みの水平展開を行います。その上で環境教育を通して、従業員だけでなく、すべての人に持続可能な社会形成の必要性を発信し続けます。

例えば

- ・事業活動として
従業員への意識啓発のための環境教育、施設見学による取り組み紹介など
- ・商品・サービスとして
環境フォーラムの開催、環境展への出展など



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、エコ・ファースト推進協議会及び加盟企業も積極的に取り組んでいます。

私たちは以上の活動を通じて、「豊かな暮らし」「安心・安全な暮らし」「健康な暮らし・健全な日常」を支えていきます。エコ・ファースト推進協議会として、エコ・ファースト企業として、個人として、それぞれの役割を果たしていきます。

策定：2019年4月1日